

鹿児島県考古学文献目録 II

池畑 耕一

1974(昭和49)年～1981(昭和56)年

および前回の訂正・補遺

例 言

1. 本編は鹿児島県に関する考古学関係文献を集録したものである。
2. 今回は、前回(鹿児島考古第9号)の訂正・追加を含め、1981年までを対象とした。
3. 記載順・略記等は前回と同様である。

◎ 次の文献は重複あるいは未発行のため消去する。前回の資料番号で記す。

16・23・32・45・100・156・184・221・267・298・299・346・347・348・362～370・635・653
763・780

◎ 次の文献は発行年を訂正する。

1. 1891年→1892年 4. 1895年→1896年 14. 1909年→1901年 59. 1931年→
1941年 162. 1951年→1921年 169. 1953年→1952年

資料 番号	発 行 年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
1	1904(M87)	薩南考古雑談	藤 田 浮 陽	考古界3-10	
2	1914(T3)	薩摩と琉球	横 山 健 堂	中央書院	
3	1916(T5)	隼人考	喜 田 貞 吉	歴史地理28-5-29-1	1917年まで
4	1918(T7)	九州旅行談	〃	考苑8-7	
5	1935(S10)	南島の旗(一)(七)	三 宅 宗 悦	ドルマン3-5・6・8・9 10・12, 4-3	
6	1938(S13)	多岐島国分寺	角 田 文 衛	国分寺の研究(下)	
7	〃	大隅国分寺	寺師見国・木村幹夫	〃	
8	〃	加治木町発見の石器	樋口清之・乙益重隆	史雑10-2	
9	1941(S16)	九州南端の石包丁	藤 森 栄 一	古代文化12-8	
10	〃	東亜農具雑記 —日本古墳発見の動と鎮—	橋 場 信 夫	〃	
11	1953(S28)	鹿児島県立図書館博物室 考古資料目録	鹿児島立図書館博物室		
12	1954(S29)	鹿児島県鹿児島市一の宮遺跡	河 口 貞 徳	年報2	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
13	1955(S30)	出水貝塚の馬について	林田重幸・山内忠平	鹿児島県学術報告4	
14	〃	我が国古代稲作の系統	国分直一	水産講習所研究報告1	
15	1956(S31)	古式古墳の多葬	石部正志	貝塚57	唐仁原大塚
16	〃	縄文文化の起源の研究	江坂輝彌	史学第29巻第2号	
17	1958(S33)	1957年度の日本考古学界(2) 弥生文化(九州)	小田富士雄	貝塚74	
18	〃	山川町成川遺跡	河口貞徳	郷土史研究会誌第2号	隼人町郷土史研究会
19	〃	成川談義	〃	三州談義7	三州談義社
20	〃	成川遺跡	〃	さんぎし	さんぎし発行所
21	〃	先史時代の南日本	〃	響友さつま	
22	〃	鹿児島県種子島広田遺跡発掘の 弥生時代人骨について	永井昌文	解剖学雑誌33	
23	1960(S35)	種子島南種子町の埋跡遺跡の 発掘調査	国分直一	昭和34年度文部省研究費による 研究報告集・人文篇	
24	1960(S35)	面嶋第二貝塚の調査	国分直一	水産講習所研究報告5	
25	〃	薩摩大口市伊佐郡における 考古学	寺師見国・三島格	九州考古学9号	
26	〃	1959年度の日本考古学界(1) 縄文文化(西日本)	間壁忠彦	貝塚97	
27	〃	弥生文化(2)	磯崎正彦	〃98	
28	1961(S36)	奄美群島沖永良部島西海岸 発見の猿顔頭蓋	金関・永井・牛島	年報9	
29	〃	奄美大島の先史時代	国分・菅野・河口	〃	
30	〃	古代九州人の風習的技術	永井昌文	福岡医学雑誌52-8	
31	〃	種子島中種子町に発見され た覆石墓について	盛岡尚幸	種子島民俗13	
32	〃	縄文と弥生	河口貞徳	三州談義40・41	三州談義社
33	1962(S37)	九州における貝殻文土器に ついて	大脇直泰	考古学研究第8巻第3号	
34	1963(S38)	貝塚出土品の一例	山口睦男	もぐら2号	
35	〃	日本及びわが南島における 葬儀上の諸問題	国分直一	民族学研究2月号	『現代のエスプリ』 111号(1976年)
36	〃	鹿児島県種子島広田遺跡出 土の弥生時代人骨について	永井昌文	解剖学雑誌38	
37	1964(S39)	離島の人文地理―鹿児島県 熊島学術調査報告―	藤岡謙二郎 編	大明堂	
38	〃	黒川洞穴発掘報告	河口貞徳	洞穴遺跡調査会報12	
39	〃	日本馬の源流	林田重幸	自然Vol.19No.2	
40	1966(S41)	鹿児島県宝島浜坂貝塚	三友国五郎	年報14	
41	1968(S43)	順序と編年	芹沢長介	新版考古学講座第1巻	
42	〃	南島の複葬について	国分直一	南島研究第8号	
43	〃	先史時代の屋久島	河口貞徳	屋久島《美しい豊かな 自然》	名溪堂
44	1969(S44)	新版考古学講座 第2巻～第10巻	〃	1971年まで	
45	〃	鹿児島県宮崎郡片野洞穴	河口貞徳	年報17	
46	〃	鹿児島県上町黒川洞穴	〃	〃	

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
47	1969(S44)	日本文化の歴史—大地と呪文	国 分 直 一		単行文
48	1970(S45)	九州考古学散歩	柴 田 勝 彦	学生社	
49	〃	古代における大隅・薩摩両 国の差異について	中 村 明 蔵	鹿児島史学19号	
50	〃	弥生時代の貝輪	永 井 昌 文	日本人類学会・日本民 族学協会連合大会記事	
51	〃	南島の須恵器	佐 藤 伸 二	東洋文化 48・49	
52	1971(S46)	鹿児島県大隅郡大隅町内にお ける縄文文化財の調査報告書	林 敬二郎	鹿児島史跡調査会	
53	〃	鹿児島県大隅郡大隅町内にお ける縄文文化財の調査報告書	黒 田 清 光		単行文
54	〃	大島郡笠利町の先史学的所見	白木原 和 美	南日本文化第4号	
55	〃	鹿児島県溝辺町石峯遺跡	河 口 貞 徳	年報 19	
56	〃	川内市鶴峯窯址	〃	〃	
57	〃	鹿児島県出水市上場遺跡	池 水 寛 治	〃	
58	〃	〃 吹上町今田遺跡	上 村 俊 雄	〃	
59	〃	〃 熊毛郡増田島ノ峯遺跡	盛 岡 尚 孝	〃	
60	〃	〃 西之表市田之脇遺跡	〃	〃	
61	〃	〃 出水郡長島町堀之浦古墳群	池 水 寛 治	〃	
62	〃	出水の旧石器と古墳	〃	出水文化 20	
63	〃	芹沢長介・池水寛治両氏に 関く	宮 路 道 雄	〃 22	
64	〃	南島史研究の問題点	国 分 直 一	地方史研究21巻4号	
65	1972(S47)	九 州	小 田 富士雄	神道考古学講座第二巻	
66	〃	南島考古学の諸問題	国 分 直 一	史学研究 86	
67	〃	鹿児島県出水市地下式板石積 石室墓出土の土器	河 口 貞 徳	土師式土器集成 2	
68	〃	大隅の埋蔵文化財	〃	みなみの手帖第3号	みなみの手帖社
69	1973(S48)	縄文晩期頃の鉄片の発見	河 野 本 道	考古学ジャーナル77	
70	〃	全国考古学関係学会、研究 会、文化財保護団体一覧(3)		〃 80	
71	〃	1972年の考古学界の動向 —縄文時代	江 坂 輝 彌	〃 81	
72	〃	地下式古墳の研究	石 川 恒太郎	帝国地方行政学会	単行本
73	〃	わたしたちの文化財を守り ましょ	県教委文化課	文化課だより第1号	
74	〃	特集・現代都市と都市遺跡 —鹿児島	上 村 俊 雄	古代学研究 69	
75	〃	九州における縄石器文化	橋 昌 信	考古学論叢第1号	
76	〃	考古学この一年の成果	江 坂 輝 彌	歴史読本第18巻第18号	
77	〃	鹿児島県前遺跡の調査概要	池 水 寛 治	高尾野町教育委員会	単行本
78	〃	先史時代の九州と大陸・南 方文化	国 分 直 一	九州文化論集 1	
79	〃	鹿児島県の文化財	鹿児島教育委員会		単行本
80	〃	鹿児島県市町村別遺跡地名表	〃		〃

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
81	1973(S48)	類器集成(奄美大島・徳之島・喜界島)	白木原 和 美	南日本文化第6号	
82	〃	祭祀遺跡地名表(5) 中国・四国・九州編	稻 山 林 雄	神道考古学講座第6巻	
83	〃	弥生土器—九州(2)(3)(5)	小 田 富士雄	考古学ジャーナル77・79・83	
84	〃	本城・田之脇遺跡調査概報	盛 園 尚 孝	西之表市教育委員会	単行本
85	〃	隼人の七ツの城	乙 益 重 隆	古代史講座月報9	学生社
86	1974(S49)	九州の古瓦と寺院	九州歴史資料館		単行本
87	〃	成川遺跡	田 村 晃 一 編	埋蔵文化財発掘調査報告七	〃
88	〃	大原・宮蔵遺跡	下 飯 村 教 委		〃
89	〃	鹿児島県上場遺跡発見の住居址	池 水 寛 治	鹿児島考古第9号	
90	〃	奄美における土器文化の編年について	河 口 貞 徳	〃	琉大史学第6号にも
91	〃	西ノ表市納音遺跡概報	上村・本田・旭 平島・多々良	〃	
92	〃	志布志の瀬文遺跡の分布・立地・構造・其の他について	瀬戸口 望	〃	
93	〃	内之浦町伊木遺跡	池水寛治・戸崎勝洋	〃	
94	〃	吉野町七社遺跡(2)	上村俊雄・出口浩	〃	
95	〃	古墳の計画(そのⅡ)	平 田 信 芳	〃	
96	〃	牧野神社所蔵の松梅蔭絵手箱について	重 永 卓 也	〃	
97	〃	工事現場における遺跡の紹介	有 元 彰 順	〃	
98	〃	鹿児島県考古学関係文献目録	池畑耕一・瀬戸久夫	〃	
99	〃	嘉徳遺跡	河 口・上村・多々良 平島・藤岡	鹿児島考古第10号	
100	〃	倉園遺跡採集の指宿式土器と其の他について	瀬戸口 望	〃	
101	〃	末吉町御井谷遺跡の席目正磨土器について	松 下 文 春	〃	
102	〃	与論島城遺跡について	有 元 彰 順	〃	
103	〃	堀川貝塚について	〃	〃	
104	〃	南島文化はどのように研究されているか	国 分 直 一	日本考古学の視点下	日本書籍
105	〃	日本在来馬の源流	林 田 重 幸	日本古代文化の探究一馬	社会思想社
106	〃	鹿児島県沖永良部島の先史時代(上)	上 村 俊 雄	古文化談叢第2集	
107	〃	鹿児島県と論島での見聞	菅 谷 文 則	青陵No.26	
108	〃	奄美先史学の当面する諸問題	白木原 和 美	琉大史学第6号	
109	〃	奄美最古の土器	河 口 貞 徳	〃	
110	〃	南島古代文化の系譜	国 分 直 一	東アジアの古代文化 叢刊号	『南島の古代文化』(毎日新聞社)にも所収
111	〃	九州島南部の朝鮮系文化	中 村 明 蔵	〃 2号	
112	〃	1978年の動向—縄文時代(西日本)	賀 川 光 夫	考古学ジャーナル94	
113	〃	〃 弥生時代(西日本)	栗 安 和 二 三	〃	
114	〃	〃 古墳時代	堀 田 啓 一	〃	

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
115	1974(S49)	1973年の動向—南西諸島	嵩元政秀	考古学ジャーナル94	
116	〃	階位的出土例と相対的編年	芹沢長介	古代史実証1	
117	〃	岩偶と岩板	江坂輝弥	〃 3	
118	〃	九州地方の造形文化	賀川光夫	〃 〃	
119	〃	シナ海諸地域の複製(1) —西南日本の複製	国分直一	どるめん第8号	
120	〃	与論島における先史学的所見	白木原和美	南日本文化第7号	
121	〃	史前時代	〃	奄美文化誌	
122	〃	外耳をもつ石臼	三島格	〃	
123	1975(S50)	薩摩国府跡・国分寺跡	河口・小田他	鹿児島県教委	
124	〃	指宿市川内地区の埋蔵文化財 調査に伴う発掘調査報告(第二年度)		指宿市教委	
125	〃	1974年の考古学界的動向 —縄文時代(西日本)	橋昌信	考古学ジャーナル108号	
126	〃	〃—弥生時代(西日本)	関俊彦・中山清隆	〃 〃	
127	〃	〃—南西諸島	安里嗣淳	〃 〃	
128	〃	新刊書評「準人」	坂詰秀一	〃 109号	
129	〃	八重山先史系土器とその北 上の形態	国分直一	〃 113号	
130	〃	国分寺・国分尼寺の伽藍配 置について(1)	白木康夫	〃 115号	
131	〃	〃 (下)	〃	〃 116号	
132	〃	新刊書評「薩摩国府跡・国 分寺跡」	坂詰秀一	〃 〃	
133	〃	海上の道—海流・季節風・ 動物をめぐって	国分直一	えとのす第2号	
134	〃	トカラ海峡	白木原和美	〃 〃	
135	〃	異考「南島の道」	柴田勝彦	〃 〃	
136	〃	双性の巫人—特に南西諸島 の事例について	国分直一	〃 第3号	
137	〃	シナ海と九州	〃	アジア文化第11巻第3号	
138	〃	南島先史時代の文化交流	河口貞徳	〃	
139	〃	邪馬台国時代の入びと	〃	日本古代史の旅3	小学館
140	〃	宮ノ前遺跡	酒匂義明	志布志町教委	
141	〃	宝島大地遺跡の調査	国分・白木原・小谷 佐藤	協会総合研究発表要旨 第84号	
142	〃	類須恵器の出自について	白木原和美	法文論叢第36号	
143	〃	先史時代の奄美	内田裕雄		南海日々新聞社
144	〃	乱脈な文化財政	河口貞徳	九州文化財白書	
145	〃	海上の道	三島格	野性時代10月号	
146	〃	日本各地の寺院跡—九州	小田富士雄	新版仏教考古学講座 第2巻	
147	〃	日本各地の仏塔—九州	多田隈豊秋	〃 第3巻	
148	〃	日本各地の墳墓—九州	渋谷忠章・上野精志	〃 第7巻	

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発 行 年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
149	1975(S50)	隼人の呪力とその系譜	中 村 明 藏	隼人文化創刊号	
150	〃	隼人豆手帖(其一隼人の栞)	藤 井 重 寿	〃	
151	〃	隼人の栞の幾何学文様の解明について考古学的資料の検討	新 東 晃 一	〃	
152	〃	種子島の製鉄遺跡から一南九州の鉄の文化の可能性	田 村 克 己	〃	
153	〃	隼人学への招待	向 山 勝 貞	〃	
154	〃	書評「薩摩国府跡・国分寺跡」	中 村 明 藏	〃	
155	〃	民族学から見た隼人	大 林 太 良	日本古代文化の探究 一隼人	社会思想社
156	〃	考古学上より見たる熊襲と隼人	上 村 俊 雄	〃	〃
157	〃	隼人源流考—島嶼世界との関連をめぐって	国 分 直 一	〃	〃
158	〃	近畿地方の隼人—とくに考古学の視点から	森 浩 一	〃	〃
159	〃	隼人支配	井 上 辰 雄	〃	〃
160	〃	隼人とその文化	金関丈夫・大林太良	〃	〃
161	〃	発掘から推理する	金 関 丈 夫	朝日選書40	
162	〃	右手の不使用—南海産巻貝製陶輪着装の意義	高 倉 洋 彰	九州歴史資料館研究論 集1	
163	〃	日本出土の越州窯陶磁器の諸問題	亀 井 明 徳	〃	
164	〃	種子島における弥生式土器	旭 慶 男	鹿児島大学考古学研究 会紀要第1号	
165	〃	橋幸礼川遺跡	佐土原 祐 昌	指宿史談第五号	
166	〃	南北九州の古墳時代墓制の対比	岩 崎 光	〃	
167	〃	上場遺跡の住居址から	池 水 寛 治	もぐら第10号	
168	〃	上場遺跡の第5次調査の概要	大久保・富 田	〃	
169	〃	大口市日東遺跡の調査 (昭和47, 48年度)	堀 切 他	〃	
170	〃	出水地方における遺跡の破壊	野 村 他	〃	
171	〃	弥生時代の南西諸島	国 分 直 一	古代史発掘4	
172	〃	縄文時代の植物食	渡 辺 誠	考古学選書13	
173	〃	七社遺跡	出 口 浩	年報26	
174	〃	風口遺跡	河 野 治 雄	〃	
175	〃	橋幸礼川遺跡	〃	〃	
176	〃	沖田岩戸遺跡	池 水 寛 治	〃	
177	〃	荘 遺 跡	〃	〃	
178	〃	日東遺跡	〃	〃	
179	〃	大原・宮原遺跡	本 蔵 久 三	〃	
180	〃	三跡寺遺跡	〃	〃	
181	〃	隼人塚団地遺跡	〃	〃	
182	〃	永山古墳	河 口 貞 徳	〃	

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
183	1976(S51)	花の木遺跡	諏訪・青崎	鹿児島埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	鹿児島教委
184	〃	放光寺遺跡	平田・出口・戸崎・長野他	〃 (2)	〃
185	〃	牟田尻・カラン迫遺跡	池畑・牛の浜	〃 (3)	〃
186	〃	入来遺跡	河口貞徳	鹿児島考古第11号	
187	〃	入来遺跡調査概要—支石墓研究の一環として	河口貞徳 編	〃	
188	〃	下小路遺跡	河口・旭・最所	〃	
189	〃	器台付皿形土器	河口貞徳	〃	
190	〃	隼人における共同体社会の発展期について—大分県の伝説文化とその背景	新東晃一	隼人文化第2号	
191	〃	隼人塚古墳の成立時期について	上村俊雄	〃	
192	〃	隼人と馬—隼人と牧畜—	中村明蔵	〃	
193	〃	書評「隼人文化」副刊号によせて	乙益重隆	〃	
194	〃	地域考古学界の動向—鹿児島県	上村俊雄	考古学ジャーナル118号	
195	〃	1975年の動向—旧石器時代	小林博昭	〃 123号	
196	〃	概説	小林達雄	日本の旧石器文化3	
197	〃	先史時代の西海交通と薩摩半島	河口貞徳	えとのす第6号	
198	〃	環シナ海民族文化考	国分直一		慶友社
199	〃	橋幸礼川遺物包含層遺跡	河野治雄	年報27	
200	〃	上場遺跡	池水寛治	〃	
201	〃	地福庵寺遺跡	盛園尚孝	〃	
202	〃	広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義	町田洋・新井房夫	科学46—6	
203	1977(S52)	新番所後遺跡	長野真一	鹿児島埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	鹿児島教委
204	〃	指辺・横家・中之家・上俣田遺跡	戸崎・出口他	〃 (5)	〃
205	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査報告	立神・中村他	〃 (6)	〃
206	〃	九州経費自動車道関係埋蔵文化財調査報告1	平田・新東他	〃 (7)	〃 西免・伊場・山神・曲泊・桑ノ丸
207	〃	南宮島遺跡	青崎和憲		始良町教委
208	〃	辻堂原遺跡	池畑・弥栄也		吹上町教委
209	〃	村原(梅ノ原)遺跡	新東・中島・牛ノ浜		加世田市教委
210	〃	鹿児島県市町村別遺跡地名表	鹿児島教委		
211	〃	隼人の研究	中村明蔵		学生社
212	〃	国分市城山・姫城	〃	隼人文化第3号	
213	〃	隼人塚	上村俊雄	〃	
214	〃	南島の二つの遺跡	下野敏見	〃	
215	〃	権力者の墓制	上村俊雄	〃	
216	〃	隼人の豪族 當君についての考察	中村明蔵	〃	

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
217	1977(S52)	国分平野の遺跡	新 東 晃 一	集人文化第3号	
218	〃	大隅国分寺址をみて	平 田 信 芳	〃	
219	〃	集人の城について	上 村 俊 雄	〃	
220	〃	鹿児島県出土の南島産貝資料	〃	〃	
221	〃	先史時代における南島と九州本土との文化交流について	〃	具志川島遺跡群第一次発掘調査報告書	伊是名村教委
222	〃	民族学から見た古代九州	大 林 太 良	西南日本の古代文化	東アジアの古代文化別冊
223	〃	考古学から見た集人	上 村 俊 雄	〃	〃
224	〃	集人の叛乱のあとにきたもの	中 村 明 蔵	〃	〃
225	〃	東南アジア史から見た集人の位置	生 田 遊	〃	〃
226	〃	シンボジウム「古代南九州の原像」	〃	〃	〃
227	〃	鹿児島県縄文時代の研究史	河 口 貞 徳	九州の原始文様	佐賀県博
228	〃	夜臼式土器出土地名表	浜田昌治・木川雅樹	福岡考古懇話会会報第7号	
229	〃	鹿児島県の円筒土器	弥 栄 久 志	考古学論叢第4号	
230	〃	九州の円筒土器とその編年問題	賀 川 光 夫	〃	
231	〃	九州の板碑	賀川・松岡・桑原永松	考古学ジャーナル132	
232	〃	経塚研究文献目録Ⅳ	関 秀 夫 編	〃 135	
233	〃	喜界島の倭墓から発掘された人骨	鈴 木 尚	〃 136	
234	〃	木棺について	中野政樹・山内文	〃 〃	
235	〃	マンローがケンブリッジ大学に寄贈した日本の資料その他について	芹 沢 長 介	考古学研究95・96	
236	〃	成川式土器	平 島 勇 夫	つくし第7号	つくし古代文化研究会
237	〃	先史時代の南島およびその周辺	国 分 直 一	日本民族と黒潮文化	角川書店
238	〃	研究史—南島の考古学	〃	〃	〃
239	〃	沖永良部島の遺跡	新 田 重 清	やむらん	
240	〃	奄美先史土器文化の南漸	安 里 進	〃	
241	〃	奄美大島伊予茂遺跡について	広 山 淳 一	南島考古第5号	
242	〃	貝をめぐる考古学	三 島 格		学生社
243	〃	鹿児島県上場遺跡	池 水 寛 治	年報28	
244	〃	鹿児島県加栗山遺跡	青 崎 和 憲	〃	
245	〃	加治屋園遺跡	弥 栄 久 志	〃	
246	〃	釘田遺跡	平 田 信 芳	〃	
247	〃	牟田尻・カラシ迫遺跡	池 畑 耕 一	〃	
248	〃	梶原遺跡	新 東 晃 一	〃	
249	〃	植平遺跡	河 口 貞 徳	〃	
250	〃	萩原遺跡	平 田 信 芳	〃	

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
251	1977(S52)	長ヶ原遺跡	新 東 晃 一	年報 28	
252	〃	木屋原遺跡	弥 栄 久 志	〃	
253	〃	葛根塚遺跡	新 東 晃 一	〃	
254	〃	松木原遺跡	〃	〃	
255	〃	上焼田遺跡	出 口 浩	〃	
256	〃	入米遺跡	河 口 貞 徳	〃	
257	〃	志布志湾沿岸の古墳文化	上 村 俊 雄	南日本文化第10号	
258	1978(S53)	西之園遺跡	池畑耕一・長野真一	鹿児島県文化財発掘調査報告書(8)	
259	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査概報	立神次郎・中村耕治	〃 (9)	
260	〃	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ	諏訪昭千代 他	〃 (10)	〃
261	〃	赤木・下刺峯・大四郎・内和遺跡	新東晃一・立神次郎		東原・入道・棚ヶ迫地
262	〃	萩原遺跡	平 田 信 芳 他		西之表市教委
263	〃	岩本遺跡	長野真一・中島哲郎	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	指宿市教委
264	〃	阿多貝塚	戸崎勝洋・青崎和憲	金峰町埋蔵文化財調査報告書(1)	金峰町教委
265	〃	堅野(冷水)竈址	戸崎・吉永・中島		社会法人南風病院
266	〃	サウチ遺跡	河 口 ・ 出 口 ・ 本 田	笠利町教育委員会 鹿児島考古第12号	
267	〃	納普遺跡	上村・本田・旭他	〃	
268	〃	道の島の考古学	国分直一・白木原和美	えとのす第9号	
269	〃	隼人源流再考	国 分 直 一	〃	
270	〃	隼人の埋葬	河 口 貞 徳	〃	
271	〃	与論島見聞記	金 関 丈 夫	〃	
272	〃	南西諸島の類須恵器—シナ提平月気文化像	白木原 和 美	〃	
273	〃	トカラ通信	〃	〃	
274	〃	隼人の村落社会	中 村 明 藏	〃	
275	〃	貝の道の考古学	永井昌文・国分直一	えとのす第10号	
276	〃	南島先史葬制追考	国 分 直 一	〃	
277	〃	弥生時代の祭祀遺跡—大隅半島山ノ口遺跡	河 口 貞 徳	〃	
278	〃	耳と目の結婚	谷 川 健 一	〃	
279	〃	上代文学にみる肥人	小 島 環 禮	〃	
280	〃	隼人の国—その視点	中 村 明 藏	東アジアの古代文化 第15号	
281	〃	1977年の動向—弥生時代(西日本)	小 田 富 士 雄	考古学ジャーナル 149	
282	〃	〃 —南西諸島	当 真 嗣 一	〃 〃	
283	〃	土師部の造形理念	平 田 信 芳	〃 150	
284	〃	池ノ久保遺跡概観	鯨 島 安 豊	潮流第1号	

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
285	1978(S53)	種子島・屋久島に関する考古学文献目録	鯉島安豊・関一之	潮流第1号	
286	〃	市来貝塚	河 口 貞 徳	鹿児島県文化財調査報告書第25集	
287	〃	阿久根市脇本竈址	池 水 寛 治	紀要出水1	県立出水高校
288	〃	南九州における人形・馬形土製品の祭祀形態	新 東 晃 一	古代文化第30巻第2号	
289	〃	隼人農耕論(一)	中 村 明 蔵	隼人文化第4号	
290	〃	鹿児島県における生土器信仰の承継 —考古学の資料を中心に—	池 畑 耕 一	〃	
291	〃	鹿児島県喜望峯郡太崎町持留 双子塚出土の朝鮮式鉄斧	上 村 俊 雄	〃	
292	〃	隼人と馬	〃	〃	
293	〃	熊襲と隼人	井 上 辰 雄	歴史新書	教育社
294	〃	笠利町高又遺跡	安 部 克 子 他	笠利町文化財調査報告書No.2 研究室活動報告3	笠利町教育委員会 熊本大学考古学研究室
295	〃	現和西原発見の灰釉陶と中国陶器	亀 井 明 徳	潮流第2号	種子島考古学研究会
296	〃	現和西原遺跡の発見の経緯と概況	石 堂 次 美	〃	〃
297	〃	立山出土のチョーナ型石器	鯉 島 安 豊	〃	〃
298	〃	隼人の船	中 村 明 蔵	学生社	単行本
299	〃	南九州の火山灰と土器形式	新 東 晃 一	どるめん第19号	
300	〃	隼人と大和政権	井 上 辰 雄	学生社	単行本
301	〃	大口市郷土誌資料 第6集	大口市郷土誌編さん委員会		寺師(1954)を集録
302	〃	勸 向	平 田 信 芳	年報29	
303	〃	釘田遺跡(第8地点)	〃	〃	
304	〃	堅野系冷水窯跡	戸 崎 勝 洋	〃	
305	〃	岩本小牧遺跡	長 野 真 一	〃	
306	〃	村原(枅ノ原)遺跡	新 東 晃 一	〃	
307	〃	城山山頂遺跡	平 田 信 芳	〃	
308	〃	南宮島遺跡I)	青 崎 和 憲	〃	
309	〃	〃 (2)	〃	〃	
310	〃	石峰遺跡	出 口 浩	〃	
311	〃	木佐貫原遺跡	吉 永 正 史	〃	
312	〃	横瀬古墳	中 村 耕 治	〃	
313	〃	阿多貝塚	戸 崎・青 崎	〃	
314	〃	辻堂原遺跡I)	池 畑 耕 一	〃	
315	〃	〃 (2)	〃	〃	
316	〃	九州経塚分布地名表	宮小路賀宏・杉山洋	考古学ジャーナル153	
317	〃	論集・海上の道	国 分 直 一 編	日本古代文化叢書	大和書房
318	〃	熊襲と隼人の文化	隈 昭 志	地方文化の日本史(I)	文一総合出版

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
319	1978(S53)	志布志湾における文化財の保護に関する動向	三 木 靖	南日本文化 11	
320	〃	与論島の先史・原史時代遺跡	高宮寅衛・知念勇	南島文化研究所々報 3	
321	1979(S54)	九州経貫自動車道関保埋蔵文化財調査報告書	新東・吉永他	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 11	三代寺・木佐貫原
322	〃	宇宿貝塚	河口・出口・本田		笠利町教委
323	〃	別府(石鏡)遺跡	立神次郎・中村耕治		志布志町教委
324	〃	野久尾遺跡	酒 匂 義 明		〃
325	〃	小牧第Ⅱ調査区	弥 栄・中島他	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 2	指宿市教委
326	〃	大竜遺跡	上村・本田・旭・繁昌	鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書 1	鹿児島市教委
327	〃	庄 貝 塚	池水・長野・旭	出水市文化財調査報告書 1	出水市教委
328	〃	薩摩国分寺跡一昭和53年度発掘調査概報	沢村・諏訪・池畑		川内市教委
329	〃	手広遺跡発掘調査終了報告	中 山 清 美		竜郷町教委
330	〃	タチバナ遺跡	村 田 他	研究室活動報告 4	熊本大学考古学研究室
331	〃	MC年代からみた九州地方縄文時代の編年	坂 田 邦 洋	別府大学考古学研究室報告第2冊	
332	〃	長島の旧石器—出水郡東町瓦無平遺跡・毎夜牧場入口遺跡	池崎篤二・吉留秀敏	鹿児島考古第13号	
333	〃	出水地方平野部の細石器資料	吉 留 秀 敏	〃	
334	〃	磨製石鏃二例	瀬戸久夫・吉留秀敏	〃	
335	〃	吹上町今木場遺跡の石器について	池 畑 耕 一	〃	
336	〃	湯之浦山上遺跡	本田道輝・東靖子 有 元 彰 順	〃	
337	〃	六堂会古墳について	有 元 彰 順	〃	
338	〃	隼人が用いた土器—成川式土器	平 田 信 芳	隼人文化第5号	
339	〃	隼人の漁撈生活	池 畑 耕 一	〃	
340	〃	宇佐八幡托宣集の隼人七城小考	市 采 家 隆	〃	
341	〃	古代における鹿児島県北部勢力について—成川遺跡の存在をめぐって	中 村 明 蔵	隼人文化第6号	
342	〃	鹿児島県	三 木 靖 他	日本城郭大系 18	
343	〃	鹿児島県における弥生時代研究の現状	池 畑 耕 一	九州考古学 54号	
344	〃	南部九州の弥生系高地性集落の發見と編年	河 口 貞 徳	高地性集落の研究	学生社
345	〃	千束遺跡	〃	〃	〃
346	〃	薩摩国分寺の塔は七重か五重か	平 田 信 芳	考古学ジャーナル No.159	
347	〃	1978年の動向—縄文時代(西日本)	隈昭志・杉村彰一	〃 No.165	
348	〃	〃 —南西諸島	知 念 勇	〃 〃	
349	〃	地域考古学界の動向Ⅱ—鹿児島県	長 野 真 一	〃 No.169	
350	〃	九州地方の細石器文化	橋 昌 信	駿台史学第47号	
351	〃	小牧3 A遺跡の紹介	長 野 真 一	指宿史談創刊号	
352	〃	鹿児島県古墳文化	上 村 俊 雄	みなみの手帖 No.26	

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
353	1979(S54)	弥生時代研究の動向	工 桑 善 通	年報 80	
354	〃	下剗峯遺跡	新 東 晃 一	〃	
355	〃	城山山頂遺跡	平 田 信 芳	〃	
356	〃	萩原遺跡	〃	〃	
357	〃	楽之平遺跡	池 水 寛 治	〃	
358	〃	サウチ遺跡	河 口 貞 徳	〃	
359	〃	西之蘭遺跡	池 畑 耕 一	〃	
360	1980(S55)	石峯遺跡	河 口 ・ 出 口 他	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書12	県教委
361	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査概報	立 神 ・ 中 村	〃 18	〃
362	〃	上ノ城遺跡	源 訪 ・ 池 畑	加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書2	加世田市教委
363	〃	弓場ヶ尾地区一貫輪遺跡・駒直跡	立 神 ・ 中 村	〃	志布志町教委
364	〃	橋幸礼川遺跡	弥 栄 ・ 井ノ上	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書8	指宿市教委
365	〃	萩原遺跡(Ⅱ)	平田・青崎・中村	〃	始良町教委
366	〃	中岳洞穴	河 口 貞 徳	〃	末吉町教委
367	〃	薩摩国分寺一昭和54年度発掘調査概報	沢村・源訪・池畑	〃	川内市教委
368	〃	馬毛島埋蔵文化財一西之表市権ノ木遺跡	白 木 原 和 美 他	研究室活動報告 6	熊本大学考古学研究室
369	〃	タチバナ遺跡(2)	中 村 恵 他	〃 7	〃
370	〃	所謂広田型貝輪の細分について	木 村 幾 多 郎	史淵 117 輯	
371	〃	鶴田町小松原古墳	上 村 俊 雄	準人文化第7号	
372	〃	鹿児島県における板蓋風習	池 畑 耕 一	〃 第8号	
373	〃	古々における服属関係の成立	中 村 明 藏	鏡山猛先生古稀記念古文化論叢	
374	〃	沖永良部における先史遺跡調査概要	高 宮 廣 衛	南島文化研究所々報	沖縄国際大学南島文化研究所
375	〃	火山灰からみた南九州縄文・前期土器の様相	新 東 晃 一	鏡山猛先生古稀記念古文化論叢	
376	〃	高麗瓦など	三 島 格	〃	
377	〃	成川式土器の細分編年試案	池 畑 耕 一	鹿児島考古第14号	
378	〃	岡山県土泊遺跡出土の成川式土器	〃	〃	
379	〃	表紙説明 平橋式土器	河 口 貞 徳	〃	
380	〃	下田尻遺跡について	本田道輝・有元彰順	〃	
381	〃	鹿児島県における安国寺式土器の一例	平 島 勇 夫	〃	
382	〃	東黒土田採集の平橋式土器と其の他について	瀬戸口 望	〃	
383	〃	輪野尾採集の塞ノ神式土器	多々良 友 博	〃	
384	〃	薩摩町福八重の段遺跡・沢牟田遺跡	川 畑 昭 光	〃	
385	〃	松木岡遺跡出土の土器について	本 田 道 輝	〃	
386	〃	鹿児島県北草地域における考古学的一般調査報告(1)	新 田 栄 治	鹿児島大学教養部史学科報告第29号	

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 取 文 献 名	備 考
387	1980(S55)	木村幹夫考古学論文集	木 村 幹 夫		単行本
388	〃	宇宿貝塚の埋葬	河 口 貞 徳	日本民俗文化とその周 辺考古学	
389	〃	九州および南島出土の絞歯 製歯飾について	三 島 格	〃	
390	〃	九州系弥生文物の対外伝播 管見	小 田 富士雄	〃	
391	〃	弥生時代における南海産貝 類の示唆	木 下 尚 子	〃	
392	〃	奄美における近年の考古学	中 山 清 美	南島考古だより第22号	沖縄考古学会
393	〃	動 向	盛 岡 尚 孝	年報 31	
394	〃	釘田第6地点	戸 崎 勝 洋	〃	
395	〃	タチバナ遺跡	中 村 暹	〃	
396	〃	小牧第Ⅱ調査区	弥 栄 久 志	〃	
397	〃	加治屋遺跡	池 畑 耕 一	〃	
398	〃	上ノ城遺跡	〃	〃	
399	〃	白寿遺跡	弥 栄 久 志	〃	
400	〃	下原遺跡	〃	〃	
401	〃	薩摩国分寺跡	池 畑 耕 一	〃	
402	〃	外川江遺跡	平 田 信 芳	〃	
403	〃	荘 貝 塚	池 水 寛 治	〃	
404	〃	城山山頂遺跡(第3次)	平 田 信 芳	〃	
405	〃	中尾田遺跡	新 東 晃 一	〃	
406	〃	山崎B遺跡	牛之浜 修	〃	
407	〃	中岳洞穴	河 口 貞 徳	〃	
408	〃	別府(石踊)遺跡	立神次郎・中村耕治	〃	
409	〃	横瀬古墳	〃	〃	
410	〃	伊敷遺跡	〃	〃	
411	〃	牧ノ原遺跡	〃	〃	
412	〃	上小牧遺跡	〃	〃	
413	〃	大園遺跡	青 崎 和 憲	〃	
414	〃	宇宿貝塚	河 口 貞 徳	〃	
415	〃	先史時代におけるスイジ貝 製品について	上 村 俊 雄	鹿児島学第28号	
416	1981(S56)	加治屋園遺跡・木の迫遺跡	弥栄・長野・池畑他	鹿児島埋蔵文化財発掘調 査報告書 14	県教委
417	〃	中尾田遺跡	新東・中島・井ノ上	〃 15	〃
418	〃	加栗山遺跡・神ノ木山遺跡	青崎・戸崎・牛ノ浜	〃 16	〃
419	〃	山崎A・C遺跡・木場C遺 跡	吉永・中村・池畑他	〃 17	〃
420	〃	与論島の先史時代	山 口 俊 博 他	研究室活動報告 9	熊本大学考古学研究室

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文	著者名	所収文献名	備考
421	1981(S56)	宇宿港遺跡	白木原和美他	研究室活動報告9 笠井町文化財報告No.4 高山町埋蔵文化財調査報告書1	熊本大学考古学研究室 笠井町教委・笠井町歴史館 高山町教委
422	〃	花牟礼(大戸原)遺跡	出口・繁昌	上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告書1	上屋久町教委
423	〃	一湊松山遺跡	〃	末吉町文化財調査報告書2	末吉町教委
424	〃	宮之迫遺跡	長野・井ノ上	枕崎市松之尾土曜美術館開館に伴う埋蔵文化財調査報告書1	枕崎市教委
425	〃	松之尾遺跡	戸崎・吉永	指宿市埋蔵文化財調査報告書5	指宿市教委
426	〃	宮之前遺跡	弥栄・中島		川内市教委
427	〃	薩摩国分寺跡一昭和55年度発掘調査報告	沢村・諏訪・池畑		別府大学
428	〃	九州の縄文早・前期土器の編年	坂田邦洋	史学論叢第11号	
429	〃	九州縄文時代土偶の研究	宮内克己	九州考古学55	
430	〃	知覧町内における先史時代研究のための調査資料覧書	河野治雄	知覧文化第18号	
431	〃	日向三山腰の遺跡について(古代における築城過程の成立Ⅱ)	中村明蔵	隼人文化第9号	
432	〃	新大隅研究計画と埋蔵文化財	河口貞徳	第2次埋蔵文化財白書	学生社
433	〃	考古学一遺跡探訪	池畑耕一他	かごしま茶の間の地球科学	鹿児島県教育地質調査団
434	〃	松木園遺跡の調査	本田道輝	鹿大史学第29号	
435	〃	動向	河口貞徳	年報21・22・23	
436	〃	北手牧遺跡	〃	〃	
437	〃	北手牧遺物包含地(第2次調査)	河野治雄	〃	
438	〃	空港建設地内遺跡	河口貞徳	〃	
439	〃	上加世田遺跡	〃	〃	
440	〃	入来遺跡	〃	〃	
441	〃	別府原古墳	〃	〃	
442	〃	北方古墳	〃	〃	
443	〃	鷲塚古墳	〃	〃	
444	〃	堂前古墳	〃	〃	
445	〃	薩摩国分寺跡	〃	〃	
446	〃	御灰塚	〃	〃	
447	〃	朝仁貝塚	〃	〃	
448	〃	坂之上坂口遺跡	河野治雄	〃	
449	〃	上場遺跡	池水寛治	〃	
450	〃	上場狸山遺跡	〃	〃	
451	〃	宮ノ脇遺跡	〃	〃	
452	〃	脇本古墳群	〃	〃	
453	〃	青椎郷田遺跡	〃	〃	
454	〃	溝下古墳群	〃	〃	